

(部分は外部評価との共通評価項目です)

(たんぽぽの丘)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	その人らしい生活が継続していけるようお手伝いしながら、ぬくもりのある家庭的な場を提供している。また、地域行事に参加して、交流も図っている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	誰でも見ることができる場所に掲示しており、職員は意識して介護するよう心がけている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	つどい広報を発行し、家族に活動状況や理念を理解していただけるよう取り組んでいる。また、地域行事に参加したり、地域住民を行事に招くことにより、理解していただけるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩や買い物に出かけた際は、近所の方に挨拶したり、会話をしている。また、畑で取れた野菜を頂いたり、広報を持って来ていただいた際に、世間話をしながら交流を図っている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	夏祭りに地域住民を招いた交流を図っている。また、地域からも、サマーフェスティバルや運動会、スポーツ大会の参加案内が届き、参加させていただきながら、親睦を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状では実施出来ていない為、今後検討が必要である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員間で話し合い、サービスの質の向上に努めている。また、外部評価の結果をふまえて今後の改善を検討している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者に質問・意見・要望をいただき、今後のサービスの向上に取り組んでいる。また、必要に応じて、消防署の方や、近隣スーパー等への参加をお願いしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状では実施出来ていない為、今後検討が必要である。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度、現時点では勉強会等実施出来ていない。	○	勉強会を計画していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度、現時点では勉強会等実施出来ていない。	○	勉強会を計画していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時は、起こりうるリスク等についても時間をかけて説明している。また、解約時にも十分に説明を行い、理解を得るように努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者にも運営推進会議に参加して頂き、利用者の意見を表せる機会を設けている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族面会時や電話による対応時にお話している。また、毎日の様子については、ケース記録を郵送し、ご家族に報告している。金銭管理表については、毎月金銭管理表をコピーし家族に郵送している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族にも運営推進会議への参加を促したり、行事の際、ご意見をいただいている。いただいたご意見や要望等は、話し合い、必要であれば反映できるよう努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>棟内職員から出た意見や提案・不安等は、職員から直接、または、計画作成担当よりきく事により、可能な限り反映できるように努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者やご家族の状況に応じて、柔軟な対応ができるよう、職員と話し合いにて勤務調整を行っている。難しい時には隣の棟の職員に手伝ってもらうこともある。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動の際には、管理者から情報をきいて、異動可能か確認している。やむを得ない自由を除いての退職の際は面談を行ない、相談するように努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画は立てていないが、機会があれば参加をすすめている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での活動の参加を勧めるとともに、関連事業所にて研修会を開催することにより、学ぶ機会や情報交換の場としている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者より様子を確認するとともに、懇親会等にも参加し、職員の話をしきょうに努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得研修などは勤務扱いとしている。また、資格取得後は、本人の意向を重視し、可能な限りその資格が生かせるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人や家族の希望をケアプランに盛り込んでいる。日々の生活の中で困っている事や不安な事を傾聴しながら解決できるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居する前に見学に来ていただいたり、契約時に家族より本人の様子について、困っている事や不安な事について話を聞き、受けとめる努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と会話を重ねたり、職員間で話し合いながら、必要なサービスを支援するように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り入居前には本人や家族に見学してもらうように努めている。不安を訴える入居者には、家族の了解の上、自宅に電話して話をさせていただき、安心感を持っていただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事の得意な方に協力していただいたり、職員の知らない言葉や歌を教えていただきながら、共に過ごし、学びながら支えあう関係を築けるように取り組んでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話をした時等、日々の様子について話をしたり、以前の生活状況について教えて頂きながら、情報交換を繰り返して、共に考えていけるような関係を築けるように取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の状況を確認しながら、外出や外泊をすすめてみたり、行事の案内を出して、より良い関係が保てるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「住み慣れた地域へ行きたい。」と話があった時は、近所の方と会話を持てるようにドライブ支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話をきいて、心身や気分、感情の変化を注意深く見守っている。入居者同士がお互いに出来ない事や分からないことを教えあったりして、関係性をいかせるように配慮している。	○	普段あまり話されない入居者同士が、仲良くなれるように、職員が仲を取りもっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了した家族に電話で現状を教えて頂いたり、行事へ招待したりして、継続的な関わりができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをケアプランにいれ、職員も心がけながらケアを行っている。家族にも面会時や電話にて入所前の暮らしを伺い、本人の意向に近づけるように努めている。	○	「郵便物を取りに行きたい」等、希望がある入居者には職員と一緒に自宅に行く等、希望に添えるように取り組んでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や電話の時等、家族より情報を得て、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の1日の暮らしを観察し、介護サービス計画書・食事や水分摂取量・排泄・バイタルのチェック表を作成して、生活のリズムを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に日々の中でそれぞれの考えを聞き、ケアプランに加えたり、変更したりしている。また、計画作成担当者を中心に、居室担当や職員の意見をきいてケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のケアチェックや会議にて、本人の心身の状況を把握して、検討しながら、現在にあった新たな介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に日々の様子やケアの実践結果を記録している。また、アセスメント兼モニタリングシートやケアチェック表を作成し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性については現在検討中です。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署立会いの避難訓練をしたり、地震対策について助言をいただき、協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の希望にて訪問美容室を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	長期的なケアマネジメントが必要な事例があった際には、電話相談や訪問をうける等協働しながら支援を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に入居後も通院している。本人、家族と話し合いながら、職員対応で通院介助をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院が脳神経内科であり、診療情報、治療方針等の助言をいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	准看護師の資格を有する介護職員が勤務しており、入居者の健康状態に応じた支援や、介護職員への助言等、より良い支援が行えるように連携をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、必ず職員が様子を確認しに伺っており、病院関係者や家族と連絡を取りながら、不安なく退院できるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化した際の話を行っている。家族の希望は伺っているが、本人と家族の思いは変化するので、安心して納得が得られるように話し合いを繰り返していくよう努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	具体的な取り組みについては現在検討中です。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所へ移られる前に、担当職員より連絡を行い、生活内容や様子等の情報提供を作成し、決め細かい連絡が行えるように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のこれまでの生活暦を把握し、個々に合わせた声掛けを行っている。また、申し送りの際、個人名を出さない工夫をする等、プライバシーの確保に留意している。個人ファイルは施錠し保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示が困難な方には、筆談やゆっくりとした口調で繰り返すことにより、コミュニケーションを図っている。また、表情や仕草を注意深く観察しながら、利用者自身で決められる場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	帰宅願望がある方や、心配事がある方の話を傾聴し、希望内容によっては家族に電話したり、安心していただいたり、散歩等に出かけることを、柔軟に支援するように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝、男性利用者には髭剃り、女性利用者には整髪を心がけ、必要に応じてお手伝いを行っている。訪問美容室の利用も行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コミュニケーションをとりながら、食べたいものや好みの物を探し出し、メニューに取りこんでいる。また、利用者とともに盛り付けや後片付けを行ったり。利用者の手で育てた野菜の収穫を共に祝って、食事を楽しめる雰囲気づくりをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は、本人の様子を見ながら楽しめるよう支援している。「餡」が好きな利用者の希望に沿って、手作りおやつも提供している。たばこについては、現在吸っている方はいない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意・便意のある方は、習慣性を持たせる為、トイレへ案内している。尿意・便意の不確実な方は、声掛けにて時間を見計らってトイレへ案内している。また、ポータブルトイレを利用して、失敗等を軽減するようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者への言葉掛け、対応の工夫、本人好みのシャンプー類を準備する等、支援しながら、タイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。また、入浴を希望した場合には、その希望に沿えるよう入浴支援を試みている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。昼寝出来ずにいる方には、リビングの椅子や畳のスペースで休んでいただいている。夜間、寝付けない時は、温かい飲み物を提供し、会話をして気持ちを落ち着けるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の得意分野を把握し、体で覚えこんだ記録を掘り起こすようなコミュニケーションをとるよう心がけている。また、家事等の主婦経験を生かした分野で力を発揮していただき、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持することで、気兼ねなく安心して施設に泊まることが出来るよう支援している。また、外出時、本人の希望するものを自分で買われ、会計も自分で行えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の個人に沿った突発的な外出支援は出来ていない。希望者を募り、ウッドデッキへ出て日光浴を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出支援行事を計画した際、利用者の希望や季節感を取り入れたドライブ等を計画し、職員と1対1の寄り添った支援を心がけている。	○	ご家族と定期的に出かけられる機会を設けられるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者希望時には、気兼ねなくご家族に電話できるように支援している。また、正月には年賀状を自宅へ送ったり、入院中の利用者へお見舞いの手紙を書いたり出来るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビング内に面会スペースを設けたり、プライバシーを考えて居室での面会を希望される方には、椅子やお茶を準備してゆっくり話が出来る居心地の良い空間作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度、現時点では勉強会等実施出来ていない。	○	勉強会を計画していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはチャイムを設置し、鍵は日中かけていない。外出しようとした際には、声掛けし、話をきいたりしながら、不安の緩和に努め、一緒に散歩したりしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者と同じ空間にしながら、記録等の事務処理を行い、さりげなく周囲の状況を把握するように努めている。夜間は巡回して、安全に休まれているか、確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態に応じて対応している。自己管理が難しく怪我をしそうなものと判断した場合は、ご家族の了解の上預かったり、持ち帰っていただき、必要に応じて危険を防ぐ取り組みを行なっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議にて、一人一人の状態の変化を話し合いながら、危険の予測をし、予防策を検討している。また、事故やヒヤリハット報告書を作成し、発生した事柄について対策を検討しながら、職員の共通認識を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年事業所では、消防署の協力を得て、救命講習の訓練を行ない、対応方法を身につけるように努めている。今年度は2月か3月に予定している。機会がある時は、数名ではあるが、外部の講習に参加するように努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練・避難経路の確認を行っている。また、運営推進会議では、地域住民への協力をお願いしながら、実際起きた場合の避難の仕方について助言をいただいている。	○	地震対策について、現在も模索しながら対応を検討している。夜間の地震想定訓練も検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランを作成・変更する際、ご家族へ現在の状態・予測されるリスクや状態の変化について説明し、話し合っ理解をえられるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の状態を職員が把握して、特変時にはバイタルチェックを行い、急変時の早期発見につなげている。変化に気がついた際には、速やかな対応と心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルに保管し、職員が内容を把握できるようにしている。また、薬の変更や臨時薬があった際には、報告や連絡ノートへ記入を行い、職員全員が把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日牛乳を飲んでいただいたり、繊維を多く含む食物の摂取、適度な運動を心がけながら、自然排便が出来るように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、職員が側について口腔内に磨き残しがないように支援している。就寝時は、義歯洗浄剤を使用し、目に見えない汚れや臭いを除去するよう取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分チェック表に記録し、個々の摂取状況を観察している。また、個々の食事状態に応じて、食事形態を変えたり、食事量の調整を行っている。また、法人内の管理栄養士より専門的なアドバイスを頂き、メニュー作成の参考にしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会を実施し、職員の意識向上に努めている。感染症の対策のひとつとして、ペーパータオルを使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒についての勉強会を実施。毎日、まな板や布巾類を消毒し、衛生管理をこころがけている。食材は、購入時に消費機嫌を考慮しており、また、必要に応じて冷凍保存している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入り口に手作りの表札やプランター・ベンチを置いて親しみやすく、明るい雰囲気をはがけている。また、ウッドデッキ内にも、プランターやベンチを置き、利用者の居心地の良い環境づくりを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、リビング内に花や植物を置き、居心地の良い空間を作っている。また、利用者と一緒にのれんや装飾をつくり、展示して、季節感を感じられる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にたたみのスペースや小さなテーブルセットを準備し、共同空間の中でも、個別に過ごせる場所を作っている。また、リビングでは、仲の良い人同士がのんびり出来る空間をつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に自宅で使用していた日用品や電化製品。棚等を持ち込まれ、愛用され、使い慣れた物の中で利用者が居心地良く過ごせる工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気によどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気温が高い時や空気によどみがある時は換気に努めている。また、衣類調節や冷暖房器具を使用して、利用者の発汗・冷え等に注意しながら調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内、全ての床を平らにして段差をなくしている。また、廊下やトイレ、浴室、脱衣所に手すりを設置しており。安心して自分から動き出せる工夫を行なっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人が昔からしてきたことや、趣味を日常生活で活かせるよう工夫している。また、新たな混乱や失敗が生じた時には、居室担当を中心に話し合っ、本人の不安材料を除去できるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキを設けて、散歩したり、テーブルや椅子を置いて日光浴をしながらくつろげるようにしている。また、隣の棟との交流も深め、利用者同士が行き来できるように活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個人の意志の尊重、利用者の言動・行動の受容を目標に掲げ、笑顔がある生活が送れるように取り組んでいます。また、今年できた、同法人の事業所の利用者や職員との交流を深めつつ、共に地域に理解して頂ける事業所を目指して取り組んでいきます。